

# 石狩市内の神社分布(1)【旧石狩市域】

Distribution of shrines in Ishikari City, Hokkaido, Japan (1)

【Former Ishikari City region】

坂本 恵衣\*

Kei SAKAMOTO\*

## 要旨

北海道では和人が流入、定住する中で小祠・神社の創立が行われた。石狩市においても同様に創立された時代・祭神に着目し、北海道神社庁誌記載の神社を中心に、石狩市の内特に旧石狩地域について地域の特徴と神社分布との関連について調べた。その結果、「場所」が置かれた沿岸部、開拓移民によって農村が開かれた内陸部では創立の時期や祀られる祭神に差異が見られることがわかった。

キーワード：神社、旧石狩市域、開拓、漁村地域、農村地域

## 1. はじめに

北海道は江戸時代から明治時代(以下、開拓期)にかけて和人が流入し、定住及び現在の文化が定着していった背景があり、神社も幕末以降に形成されたものが多い。各神社の創立には移民の出身地での信仰や、開拓期の環境が関係していると推測される。本文では石狩市における神社分布と地域的な特色との関係について考察する。

なお、石狩市は旧石狩市域、厚田区(旧厚田村)、浜益区(旧浜益村)で形成されるが、地区ごとに和人の移入した経緯や街の形成過程に差異があるため、本文においては旧石狩市域に限定する。

## 2. 旧石狩市域について

石狩市は南を札幌市に隣接し、西側一帯が日本海に面する街である。旧石狩市、厚田村、浜益村が2005(平成17)年に合併し現在の石狩市となった。

石狩市の中で今回触れる旧石狩市域は幕末に「場所」が置かれることで和人の定住が進んだ日本海沿岸地域(以下、本町地区)と、開拓移民によって農村が開かれた内陸部で構成されている。

本町地区は行政上の区分ではなく一般には1871(明治4)年に設定された9町の内石狩川河口の左岸地域、石狩湾と石狩川に挟まれた7町のことを指す場合が多い。本町地区は場所が置かれた他、漁業や交易、商業でにぎわい、石狩の中心となった地域である。

内陸部は、地域ごとに移住元地域や時期は異なるが、ほとんどが開拓のために移住した人々で構成され、時代の変化に伴い畑作から水田や酪農等への遷移は見られるが農業を生業とした。

本町地区と内陸部では生業・和人の流入時期が異なるため、神社分布についてもこの2地域に分けて言及する。

\* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

### 3. 各地域の移民の流入時期と生業

旧石狩市域における移民の流入時期と生業については、各参考文献から代表的なものを抽出した(表1, 図1).

生業については前述したように、本町地区では場所の経営や漁業、商業が行われ、内陸部(樽川の一部を除く)では畑作や稲作、酪農を中心とした農業がおこなわれた他、八の沢地域では石狩油田の採掘のために人々が町を形成するようになった。

表1. 旧石狩市域における開拓移民の代表的な移住時期

地域	出身地	時期	主な生業, 事業
本町地区	—	17世紀	場所運営, 漁業, 商業
花畔	岩手県	1871年(明治4)年	農業: 酪農, 稲作
樽川	山口県	1885年(明治18)年	農業: 稲作, 酪農, (一部)漁業
南線	四国地域	1879年(明治12)年	農業: 畑作, 酪農
生振	宮城県	1871年(明治4)年	農業: 畑作, 稲作
	愛知県	1891年(明治24)年	
高岡(高岡)	山口県	1885年(明治18)年	農業: 稲作, 畑作
高岡(八の沢)	—	1903から1960年 (明治36から昭和35)年程	石狩油田

(石狩市教育委員会文化財・博物館開設準備室編, 2001; 石狩市編, 2001; 石狩町編, 1985; 生振開村百二十年記念誌編集委員会編, 1992; 生振村愛知県団体開拓百年史編集委員会編, 1993; 河野本道, 2003; 高岡開基百年記念誌編集委員会編, 1984; 樽川地主会, 1977; いしかり砂丘の風資料館編(石狩ファイル)より)  
 ※本町地区, 高岡(八の沢)については事業等に伴う移住のため出身地は省略した



図1. 移民の流入時期と場所の一例と神社分布 (国土地理院地図に加筆)  
※地図は現在のものを使用し、示した地域については大まかな範囲を示している

#### 4. 神社の分布について

今回取り上げた旧石狩市域の神社は「北海道神社庁誌 (北海道神社庁発行, 1999)」に記載され、

公的に登録されたもの、及び「石狩の碑 (石狩市郷土研究会発行, 1987, 1988, 2006)」に記載された地図上で現存が確認できたものを対象とした。

表2. 旧石狩市域の神社一覧

	名称	場所	創立年	祭神	旧社格
1	石狩八幡神社	弁天町1番地5(弁天町1)	1858 (安政5年)	誉田別命 倉稲魂命	郷社
2	石狩辨天社	弁天町北18番地 (弁天町22-8)	1694 (元禄7年)	弁財天(巖島大明神) 妙亀法鮫大名神 稲荷大名神	未公認
3	花畔神社	花畔村573番地 72(花畔573-72)	1872 (明治5年)	金刀比羅之大神 大己貴神 少彦名神 天御中主神 大国魂神	無格社
4	樽川神社	樽川332番地(樽川500-33)	1887 (明治20年)	天照皇大神 豊受大神	無格社
5	南線神社	花川南3条1丁目 24番地	1897 (明治30年)	大物主大神	
6	生振神社	生振203番地4	1873 (明治6年)	天照皇大神 誉田別命 大物主命	無格社
7	生北神社	生振村200番地 10(北生振)	1904 (明治37年)	天照大御神 誉田別尊	無格社
8	美登位神社	生振村北13線(美登位)	1901 (明治34年)	誉田別命	未公認
9	八幡稲荷神社	八幡町 母子会館横(八幡2丁目)	不詳	倉稲魂命	
10	高岡神社	八幡町高岡22番地2(八幡町高岡28)	1889 (明治22年)	誉田別命 倉稲魂命	無格社
11	五ノ沢神社	八幡町字高岡(八幡町高岡402-2)	1902 (明治35年)	天照大御神 誉田別命	未公認
12	熊の神社	高岡五の沢(記載なし)	不詳 (1896(明治29)年か)	熊野大神	
13	伊夜日子神社	八ノ沢→札幌	1927(昭和2年)	天之香具山命	

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1987; 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 1988; 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編, 2006; 北海道神社庁誌編輯委員会編, 1999より)

## (1) 各神社について

各神社の基本情報については表 2 の通りであるが、文献に記録のある神社の概要及び引用文献を下記に示す。

### ①石狩八幡神社

「安政 5 年箱館総社八幡宮神主菊池大蔵重賢より蝦夷地の中に当社八幡宮の末社を勧請し、蝦夷地惣鎮守として宮祠造営されるよう箱館奉行に願い出たのを始めとする。

安政 5 年石狩町川東町（現在の八幡町）に石狩八幡宮を建立する。明治 3 年御神体を神祇官において点検、点状を下渡される。

明治 7 年有志と協議の上弁天町の現在地に奉遷し現在地の稲荷大神を相殿に祀る。明治 8 年石狩郡郷社となる。明治 34 年本殿等を新築。

大正 4 年神饌幣帛料供進神社に指定される。戦後宗教法人となる。」（石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁 HP——石狩八幡神社）

### ②石狩辨天社

（石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1987；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999）

### ③花畔神社

「明治 5 年花畔村に入植した南部団体の人達により花畔北 8 線に小祠を建立し、花畔村金刀比羅神社と称したのが始まりである。

明治 27 年 8 月に花畔村北 8 線 2 番に遷座し花畔神社と改称する。その後昭和 46 年石狩湾新港開発計画により花畔北 11 線に移転すると共に相馬妙見太田神社、花畔瑞穂神社を合併・合祀し、今に至る。

合併により合祀された歴史をもつ御祭神  
相馬妙見太田神社 天御中主神 昭和 46 年合祀・

花畔瑞穂神社 昭和 46 年合祀」

（石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988，北海道神社庁誌編輯委員会編，1999，北海道神社庁 HP——花畔神社）

### ④樽川神社

「安政 5 年箱館総社八幡宮神主菊池大蔵重賢よ明治 20 年樽川村入植者目貫昇太郎外数名により小祠が建立される。

明治 37 年 5 月樽川神社創立を出願。

明治 39 年 3 月 16 日内務大臣より創立を許可される。

昭和 21 年 6 月 28 日宗教法人法による宗教法人となる。」（石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁 HP——樽川神社）

### ⑤南線神社

「当南線地域は、明治 14 年横井元八以下 14 戸の香川県人が入植したのが始まりと伝えられる。

本神社は、明治 30 年に片山謙蔵が郷里讃岐の金刀比羅宮に参詣し御神札を戴き帰道、樽川村南 6 線（現花川南 5 条 5 丁目）に小祠を建立し奉斎申し上げたのが始まりである。明治 38 年に現花川南 4 条 1 丁目に遷座し、大正 6 年現花川南 2 条 2 丁目に遷座する。昭和 3 年同地 2 反歩は町村農場より境内地として寄贈を受け、改築・新築を重ねつつ半世紀に渡り鎮座せるも、新札幌団地造成のため移転を余儀なくされ、昭和 45 年現在地に遷座す。同 49 年社務所新築、同 57 年本殿・幣殿増改築、平成元年牛馬大神碑台座修復、同 5 年拝殿・社務所増改築を氏子崇敬者の奉賛により竣工今日に至る。この間昭和 52 年 12 月宗教法人登記をし、平成 8 年 12 月 24 日承認を得て神社本庁所属神社となる。」（石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁 HP——南線神社）

⑥生振神社

「明治6年宮城県より入植の人々により小祠を建立し天照皇大神，誉田別命，大物主命の3神を祀ったのを始めとする。

明治36年生振神社として創立の許可を受ける。明治41年現在地に遷座，昭和21年宗教法人となる」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁HP——生振神社)

⑦生北神社

「明治37年入植者が相議って現在地に小祠建立して天照大御神，誉田別尊を奉斎したのに始まる。

昭和34年本殿を新築し，付近の稲荷神社，倉稲魂神を合祀し，昭和52年本殿を新築する。

昭和53年神社本庁より設立許可を受ける。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁HP——生北神社)

⑧美登位神社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988，北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

⑨八幡稲荷神社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

⑩高岡神社

「明治22年7月なかば移住民が高岡開村とともに小祠を建立し，誉田別命，倉稲魂命を祀る。大正14年6月15日高岡神社創立を出願し昭和4年1月26日内務大臣望月圭助より創立を許可される。

昭和22年6月28日宗教法人となる。」(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；

北海道神社庁誌編輯委員会編，1999；北海道神社庁HP——高岡神社)

⑪五ノ沢神社

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988；北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

⑫熊の神社

明確な創立年の記載はないが，1996(平成8)年に創立100年の祭礼を行った記録があり，1896(明治29)年の創立と推測される。

(石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編，1988)

⑬伊夜日子神社

(北海道神社庁誌編輯委員会編，1999)

①石狩八幡神社，②石狩辨天社は本町地区に，③花畔神社から③伊夜日子神社は内陸部に位置する。

なお，⑫熊の神社は北海道神社庁誌には記録がないが現在も祭礼が続いているため記載した。⑬伊夜日子神社は石狩油田の閉鎖に伴い祭神は札幌の弥彦神社にうつしたとされるため，現在は跡地に看板が残るのみである。

(2) 各地域の特色と神社の傾向

①神社の創立時期

各神いずれの地域においても入植，移住後に神社が創立されており，例外は見られなかった。これは神社がそれぞれの地域に和人が定住するようになってから創立されたものであることを示している。

②生業との関連性

生業については大きく2地域に分かれることを前述した。漁業や商業を主とした本町地区と，農業を主とした内陸部である。

表3. 各地域への移住時期と神社の創立年

地域と移入時期	神社と創立年
本町地区 17世紀	石狩八幡神社 1858(安政5年)
	石狩辨天社 1694(元禄7年)
花畔 1871年(明治4年)	花畔神社 1872(明治5年)
樽川 1885(明治18年)	樽川神社 1887(明治20年)
南線 1879年(明治12年)	南線神社 1897(明治30年)
生振 1871年(明治4年) 1891年(明治24年)	生振神社 1873(明治6年)
	生北神社 1904(明治37年)
	美登位神社 1901(明治34年)
高岡 1885年(明治18年)	高岡神社 1889(明治22年)
	五ノ沢神社 1902(明治35年)
高岡(八の沢) 1903から1960年 (明治36から昭和35)年程	伊夜日子神社 1927(昭和2年)

本町地区に該当するのは(1)-①石狩八幡神社、②石狩辨天社である。これら2社に祀られる祭神の内、例外として妙亀法鮫大明神はチョウザメを神格化した神で石狩地域で祀られる地域信仰の一つである。また稲荷伸についても後に石狩辨天社で祀るようになったとされる。誉田別命(八幡神)や弁財天(巖島大明神)については海上安全、水辺等を司るものとして沿岸地域で祀られたと考えられる。

内陸部については大きな例外は②熊の神社、③伊夜日子神社である。熊の神社の祭神については明確な記録はなく、地域で「熊に襲われたことがない」というような話は存在したが、定かではない。伊夜日子神社は石狩油田の経営に伴い山中に町が形成される中で創立されたが、この地域に伊夜日子神社が求められた背景は明確でない。祭神については伊夜日子神社(弥彦神社)の主神とされる天之香具山命であり矛盾は見られない。この2社については地域的な特徴と生業との直接的な関係性を示すことは困難であると判断した。

残りの9社についてはある程度共通性がみられた。

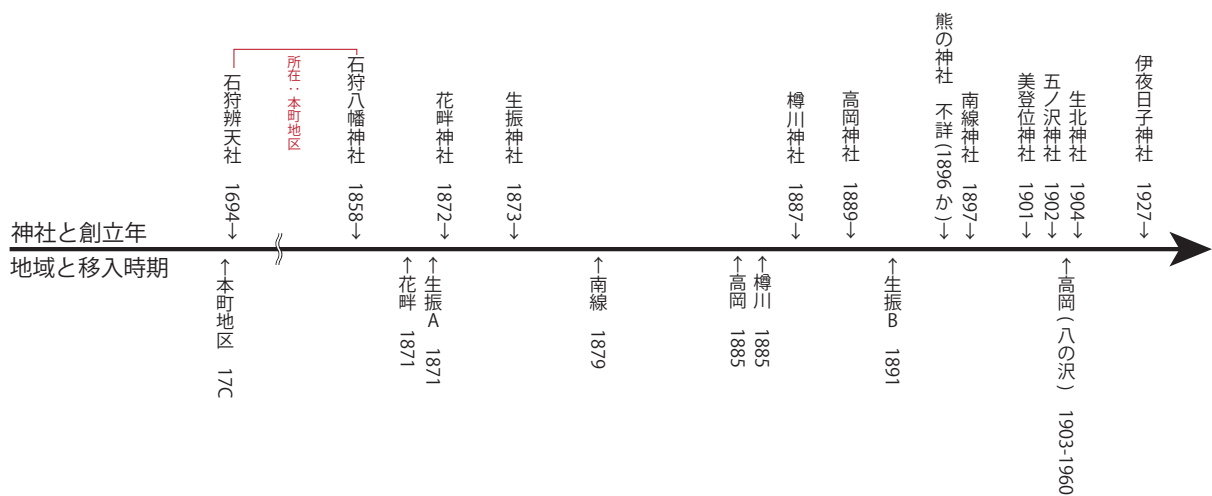


図2. 各地域への移住時期と神社の創立年比較図

一つは天照大御神及び開拓三神である大己貴神、少彦名神、大国魂神が祀られている点である。北海道の神社でも特に明治時代以降に創立、分霊を賜った神社に多くみられる。

もう一つは倉稲魂命等の稲荷神をはじめとした豊穰神、農耕神が祀られている点である。これは開拓を背景に農業を生業とする地域では当然ともいえる。

なお、花畔神社の金刀比羅之大神は花畔神社が元が金刀比羅神社であったため、天御中主神は他神社からの合祀のため除外した。

本町地区、内陸部に関係なく漁業地域では海神、水神、内陸部では開拓神に加え農耕神等生業に関係のある祭神を祀っていた。これは各神社が入植、集落等が形成された後、各々の生活の支えとして神社を求めたことが背景にあるからと推測される。

以上のように地域の文化的背景や人々の生活、生業が神社の信仰に反映されていることがわかる。特に今回言及した石狩市の旧石狩市域においてはその特徴が顕著であり、神社全体としてみると北海道神社庁誌に掲載され、現存する神社の内に例外は見られなかった。

## 5. おわりに

本文では旧石狩市域という石狩市の中でも一部の地域に限定して神社分布について考察した。石狩市域内の場合、北海道神社庁誌に未掲載の神社や、合祀・廃祀された神社については調査対象外としたため、石狩市の神社の特性を見る場合、調査対象を拡大する必要があると考えられる。

また、厚田区、浜益区については町の形成過程が異なるため、今回は対象外とした。石狩市域とは歴史的背景が異なるほか、神社や祀られる祭神にも違いがみられる。今後は調査区域を厚田区・浜益区まで含めた石狩市全域へとすることで、北海道の沿岸地域に見られる神社分布の一傾向を示

すことができると考えられる。

## 引用文献

- 石狩市教育委員会 文化財・博物館開設準備室編、2001. ふるさといしかり. 石狩市教育委員会.  
 石狩市編, 2001. 石狩市市勢要覧. 石狩市.  
 石狩町編, 1985. 石狩町誌／中1. 石狩町.  
 生振開村百二十年記念誌編集委員会編. 1992. 生振開村百二十年. 生振開村百二十年記念事業協賛会.  
 生振村愛知県団体開拓百年史編集委員会編. 1993. 生振村愛知県団体開拓百年史, 愛知県団体開拓百年記念事業協賛会.  
 いしかり砂丘の風資料館編, いしかりファイル. 11, 14, 37, 48, 53, 54, 56, 68, 69, 85, 109, 110, 111, 112, いしかり砂丘の風資料館.  
 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編. 1987. 石狩の碑—石碑等にみる石狩町の歩み 第1輯 (いしかり郷土シリーズ). 石狩市郷土研究会.  
 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編. 1988. 石狩の碑—石碑等にみる石狩町の歩み 第2輯 (いしかり郷土シリーズ). 石狩市郷土研究会.  
 石狩市郷土研究会石狩の碑調査編集委員会編. 2006. 石狩の碑—石碑等にみる石狩市の歩み 第3輯 (いしかり郷土シリーズ). 石狩市郷土研究会.  
 河野本道. 2003. 石狩市史／石狩市年表. 石狩市.  
 国学院大学日本文化研究所編. 1999. 神道事典. 弘文堂.  
 北海道神社庁 HP. <https://hokkaidojinjacho.jp/> (最終閲覧日: 2024年2月29日)  
 高岡開基百年記念誌編集委員会編. 1984. 石狩高岡開基百年記念史. 高岡開基百年記念事業協賛会.  
 樽川地主会. 1977. 樽川百年史. 樽川地主会.  
 北海道神社庁誌編輯委員会編. 1999. 北海道神社庁誌. 北海道神社庁.